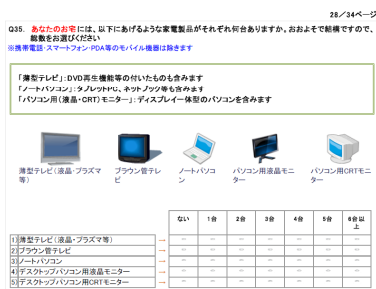


平成19～21年度の3ヶ年において、生活・行動パターン情報を得るためのアンケート調査および解析を実施した。住居情報(築年数や部屋の大きさ等)やそこで使用する消費者製品情報(芳香剤や家電製品等)、行動情報(室内滞在時間や、製品の使用数・頻度、換気状況等)などが生活・行動パターン情報であり、室内での暴露量を適切に把握し(推計し)評価するための重要な項目である。

調査内容

- 質問・選択肢を精査し、インターネットによるアンケート調査を実施(調査は調査会社)。
- 平成19年度は、全国10区分・年代6区分とし、各地域・各年代から均等にサンプリング。
- 平成20、21年度は、地域分布、年代分布を考慮した比率にあわせてサンプリング。



調査に使用した画面例
(H21b調査より)

- 住宅基本情報
- 居住年数、築年数
- 寝室・居室面積
- 機械換気システム

- 台所や部屋掃除などの頻度
- 家・寝室/居室の滞在時間
- 室内での読書

*居室とは、寝室以外に滞在時間が長い部屋を指します。



- エアコンの使用実態(夏季)
- 窓開け時間等の換気行動
- 暖房器具の使用実態(冬季)
- 暖房使用時の換気状況

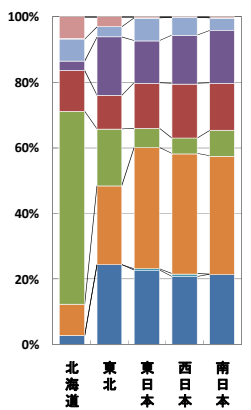
- 設置家具の個数
- 芳香剤、防虫剤等の使用の有無
- 溶剤(接着剤、塗料、ワックス)の使用頻度
- 家電製品の個数
- 使用製品(カーテン、絨毯、テレビ)の使用情報

- 他の統計調査との比較調査項目(年収)

解析結果

H19a調査からH21b調査までのすべての調査結果について、単純な集計・統計値の算出に加え、地域別・男女別・年代別等でのクロス集計や多変量解析を実施し、相関性について解析。 ※解析には、統計解析システム[®]を使用。得られた多くの解析結果のうち、地域別の解析例として、暖房器具の使用割合・冬季の窓開放時間について以下に示す。

○地域別の暖房器具の使用割合



地域別暖房器具の使用割合

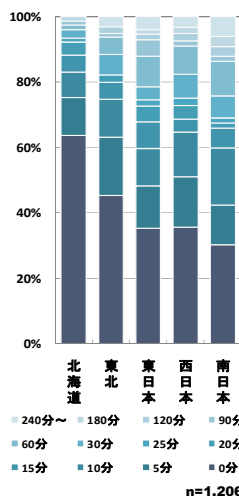
暖房器具の使用割合分布に地域差あり($p < 2.2 \times 10^{-16}$)。

北海道は、半数以上の家庭で外排気ストーブを使用。

開放型暖房器具の使用の有無で分類し、多重比較検定を行ったところ、北海道とその他地域間に有意な差が見られた。

⇒北海道は別途暴露シナリオを構築する必要あり。

○地域別冬季の一日当たり窓開放時間(換気時間)



地域別冬季の窓開放時間(換気時間)

冬季の一日あたりの窓開け時間の分布に地域差あり($p = 1.937 \times 10^{-3}$)。

北海道では、6割以上の家庭が全く窓を開けて換気しない。

⇒冬季の北海道では、家屋内外の温度に著しい差があり、温度差換気で一定レベルの換気量は保たれている可能性があるが、室内換気量についても、北海道は別途暴露シナリオを構築する必要あり。



調査・解析結果は、以下のWebサイトで公開(一部)*しております。
* 調査結果は広くご利用いただけるよう、中央値、偏差等の統計情報を含むデータとして順次公開していきます。
http://www.safe.nite.go.jp/risk/expofactor_index.html

※本調査の成果は、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)事業「化学物質の最適管理をめざすリスクトレードオフ解析手法の開発」プロジェクトの一環として得られたものです。